

以下のブログの記事は、ラビアンテルマンや、太田龍氏などの研究者が調べてきた国際銀行権力の秘密組織が形成された背景について良くまとめられている。

(ブログ夏風より転載)

<http://plaza.rakuten.co.jp/triumph120/diary/200704170001/>

ロスチャイルドのバックボーンはサバタイ派＝フランキスト

なぜロスチャイルドが台頭したのか？

ユダヤ教ラビ、マービン・S・アンテルマンによれば、17世紀の「偽メシア」サバタイ・ツヴィと、その流れを汲む18世紀のフランキストたち、そのフロントとしての「改革派ユダヤ教」と「保守派ユダヤ教」のバックアップがあったらしい。

ロスチャイルドのステルス性（正体が見えない）は、ここに由来する。

このセクトがイルミナティを生み出し、1807年にはユダヤ教改革派運動を設立し、やがて正統派ユダヤ教を排斥して、ユダヤ人社会の主流となった。

ヘブライ大学のヘブライ語文献・カバラ学・ユダヤ教神秘主義・ユダヤ教史の権威、ゲルショム・ショーレム教授によれば「フランキストはカバラ学派であり、彼らサバタイ派＝フランキストはユダヤ派に反逆し、ユダヤ主義から脱走した」という。

また、「ここに我々はセクト主義的傾向に必要な全てを見出すことが出来る。このセクトは、イルミナティのために奉仕するものであって、彼ら自身の結果点としても、通俗にして無教養な、理解力の欠如している大衆の一時的な避難場所としても役立つ。セクト主義者たちは、彼ら自身を新しい世界の前衛であると見なしている」と述べている。

サバタイ派＋フランキストたちがフランス革命を演出した。

そして、それを契機として全世界の支配権を掌握すべく行動を開始した。

ロスチャイルド家に由来する New World Order のための四つの基本綱領

- 1.世界革命行動計画
- 2.イルミナティの創設者アダム・ヴァイスハウプトの行動綱領（\*1）
- 3.アルバート・パイクの『未来計画』
- 4.シオンの議定書

ロスチャイルド家を中核とするイルミナティは、超古代エジプトのオリシス信仰を復活させようとしている。オリシス信仰とは、一ドル紙幣の裏面に印刷されている米国の国璽「万物を見通す目」を崇拝するカルトのこと

「万物を見通す目」カルトはサバタイ派＝フランキストの今日的形態。

その目的は、ユダヤ密教タルムード学派＝カバラ学派が一貫して追及してきたことと同じで、超人＝神人種（エリート＝選民）が家畜人間（ゴイム＝大衆）を支配し、徹底的に管理・コントロールする社会をつくること。

## サバタイ派歴代首長

- 1.サバタイ・ツヴィ
- 2.ガザのナータン
- 3.ソロモン・アイロン
- 4.ネヘミア・チョン
- 5.ユダ・ライブ・プロスニッツ
- 6.ヨナタン・アイベシュツ
- 7.モーゼス・メンデルスゾーン（「理性の時代」と呼ばれた18世紀の集大成的な思想家といわれる。）  
アンテルマンによれば、ドイツのユダヤ人の哲学者・啓蒙思想家であり、大金融家でもあったモーゼス・メンデルスゾーンがロスチャイルド家とサバタイ派＝フランキストを結びつけた。

（転載終了）

現在に続く自由民主制を考案し実現するための勢力の特徴は三つある。

一つは権力の存在を隠すことに長けている。

もう一つは、資本主義経済の原理に通じている。

もう一つは、民主政治の原理に通じている。

経済をコントロールするには金融の専門家であり、銀行家であること。

銀行がつくりだす信用創造の仕組みを隠すことによって資本主義経済はコントロールできる。

この役目を担ったのはおそらくロスチャイルドのような国際銀行家であろう。

もう一つは、啓蒙思想に通じた存在である事。

自由、平等などの基本的人権や三権分立などの啓蒙思想と政治システムを誰よりも理解している人間でなくてはならない。この役目を担ったのはモーゼスメンデルスゾーンのような啓蒙思想家であろう。

もう一つは、国際銀行権力の最大の特徴であるステルス性であること。自らの存在を隠すことによって、世間に管理していることを気づかれないようにすることである。この部分の役目を担ったのは隠れユダヤの謀略部隊を再組織化したサバタイ派フランキストのヤコブ・フランクなどであろう。

この3人が中心となって作られた組織が、ヴァイスハウプトが創設したフリーメーソン・イルミナティーと結びついた時に西欧の秘密結社によって操作される自由民主制のモデルの起源が出来上がったと推測する。